

御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

< 噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）が継続 >

7 月 5 日から 7 日にかけて実施した現地調査の結果、2014 年に噴火が発生した火口列の一部の噴気孔から勢いよく白色噴気がでていましたが、高温領域の広がりに変化は認められず、火口列の噴気孔の温度は 2015 年以降やや低下しており、噴煙・火山ガスの増加傾向はみられませんでした。

【防災上の警戒事項等】

火山活動には静穏化傾向がみられ、噴火が発生する可能性は低くなっていますが、当面は火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

活動概況

・表面現象の状況（図 1～4）

7 月 5 日から 7 日にかけて、2014 年 9 月 27 日に噴火が発生した火口列周辺の状況について現地調査を実施しました。その結果、火口列の噴気孔から白色噴気が出ており、一部の噴気孔からは勢いよく噴気がでているのを確認しました。

赤外熱映像装置¹⁾による観測では、火口列周辺に引き続き高温領域を確認しました。高温領域の広がりに変化は認められず、火口列の噴気孔の温度は 2015 年以降やや低下していました。

一部の噴気孔の周辺で硫化水素を検知しましたが、二酸化硫黄を検知した場所はありませんでした。

以上のように、噴煙活動は継続していましたが、噴煙・火山ガスの増加傾向はみられませんでした。

1) 赤外熱映像装置とは、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

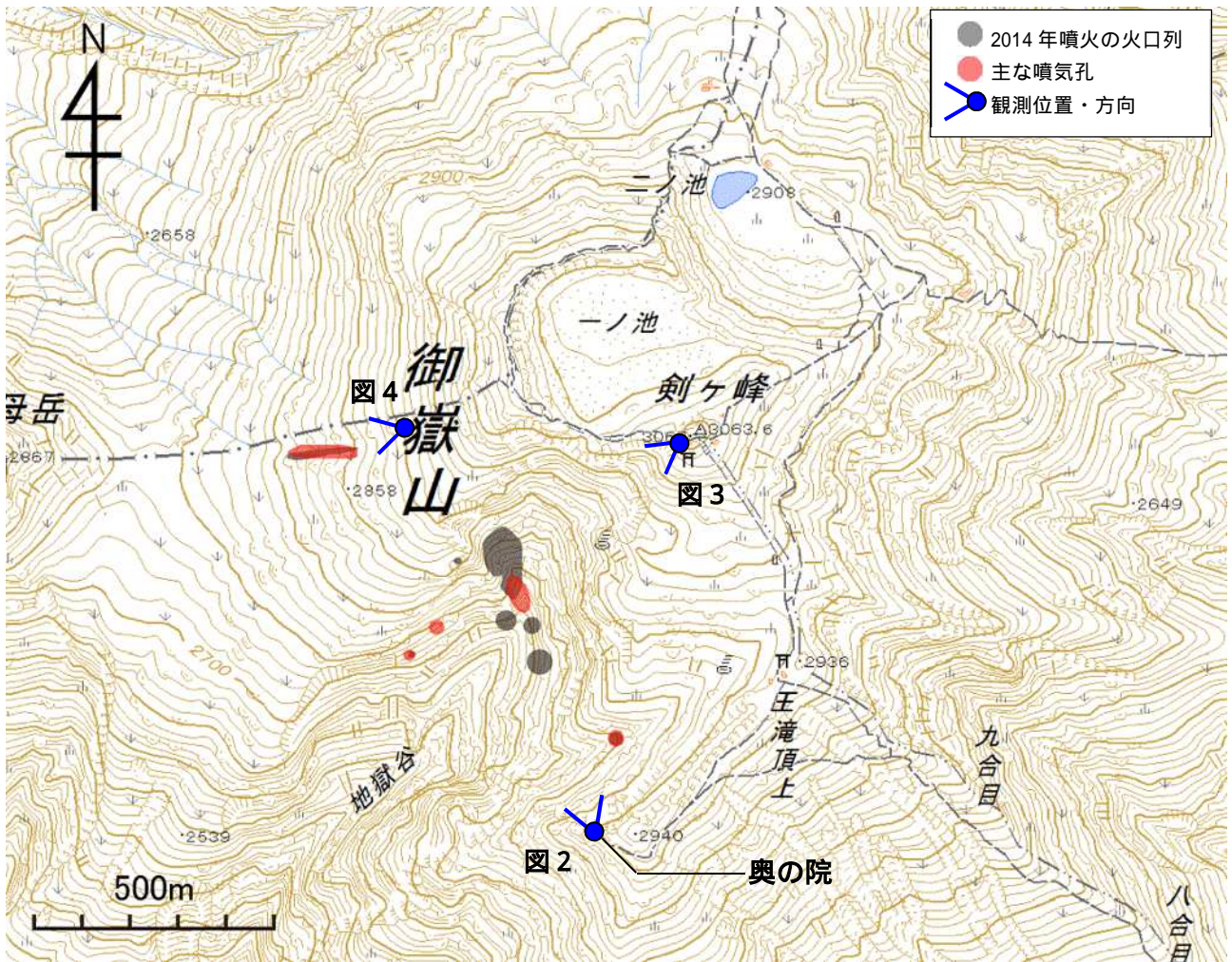
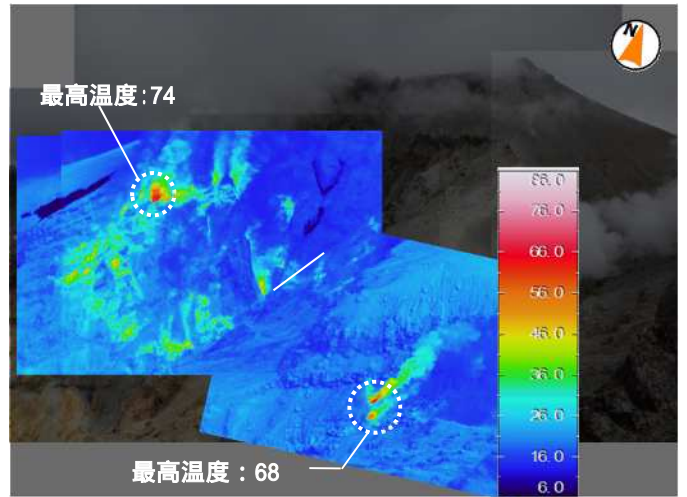


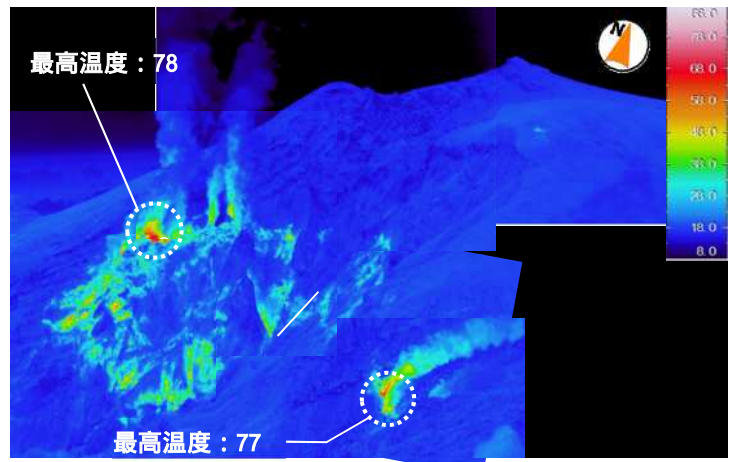
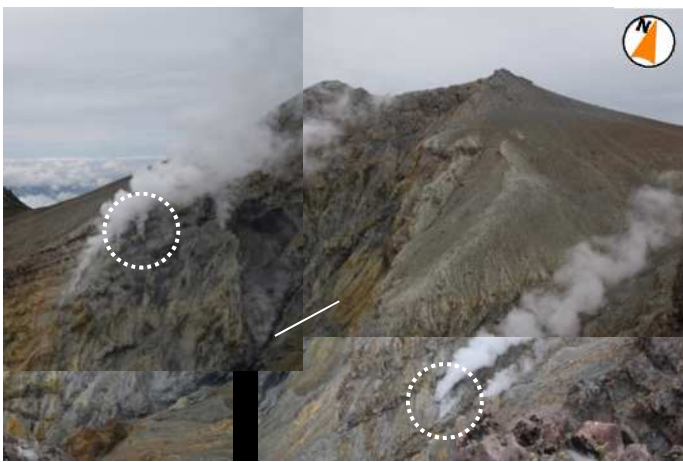
図1 御嶽山 観測地点位置図

2014年に噴火が発生した火口列の位置は及川（投稿中）による

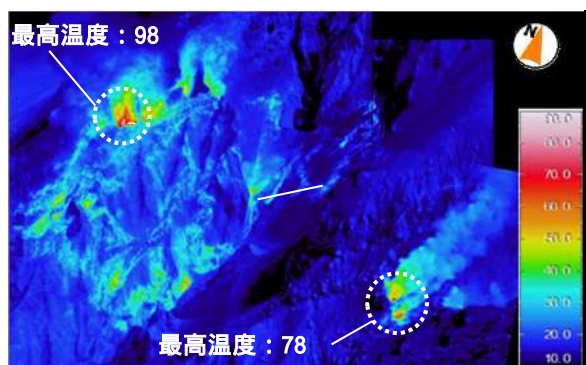
- ・ ~ は、図2～4に示した噴気孔 ~ に該当します。



2017 年 7 月 6 日 11 時 20 分撮影 気温:15.3 湿度:66.4% 天気:晴れ



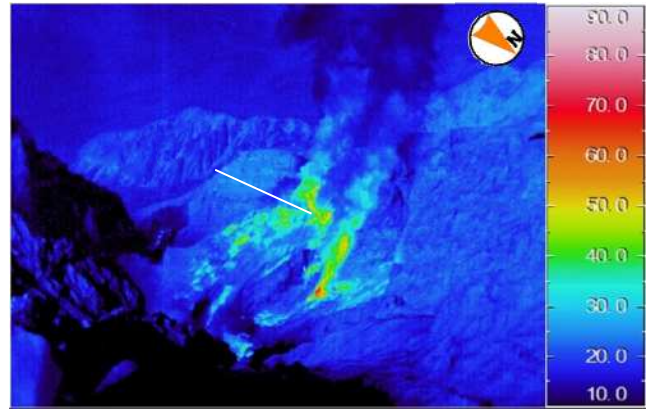
2016 年 9 月 16 日 11 時 00 分撮影 気温 11.1 湿度 45.2% 天気:晴れ



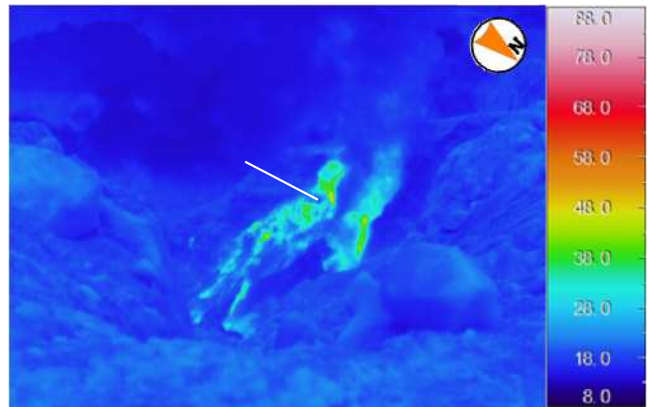
2015 年 6 月 10 日 09 時 10 分撮影 気象データなし

図 2 御嶽山 地獄谷の可視画像と赤外熱映像装置による表面温度分布（奥の院より撮影）

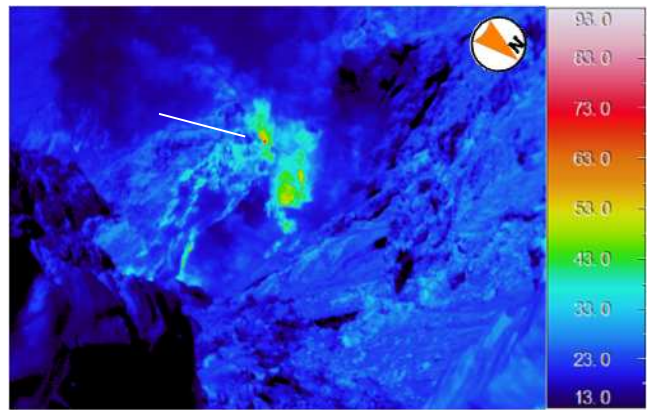
図中 ~ は、図 1 の噴気孔 ~ に該当



2017 年 7 月 7 日 08 時 05 分撮影



2016 年 9 月 16 日 13 時 16 分撮影



2015 年 6 月 10 日 10 時 50 分撮影

図 3 御嶽山 地獄谷の可視画像と赤外熱映像装置による表面温度分布（剣ヶ峰より撮影）

図中 は、図 1 の噴気孔 に該当



2017 年 7 月 6 日 14 時 21 分撮影

図 4 御嶽山 山体西斜面の噴気孔の様子

図中 は、図 1 の噴気孔 に該当

- ・火口から白色噴気があがっていましたが、活発な噴気活動は確認されませんでした。